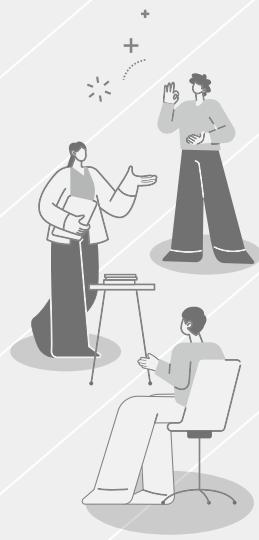


# 日本語教育実習 ワークブック

Workbook for Japanese Language Teaching Practicum



北出慶子 ● 澤邊裕子 ● 嶋津百代 ● 杉本 香 ● 横溝紳一郎  
Keiko Kitade Yuko Sawabe Momoya Shimizu Kaoru Sugimoto Shinichiro Yokomizo

編著



# はじめに

## 1. 本書の目的と特徴

日本語教師をめざす実習は、長年にわたり、「さまざまな現場の教師による指導」と「異なる立場の教師同士の協力・連携」によって支えられてきました。現場で蓄積されてきた知見は非常に豊富ですが、それらを実習生にわかりやすく伝えたり、実習を通じた学びについて教師間で相互理解を深めたりするためには、言語化された教材や資料が必要です。本書は、こうした課題に対応することを目的とし、以下のような特徴を備えています。

### ① 多様な立場の実習関与者による協働開発

実習の送り出し側と受け入れ側、大学と日本語学校といった異なる機関の教師に加え、かつて実習を経験し現在は日本語教師として活躍する若手の先輩教師も含め、多様な立場の関与者が協力し、それぞれの視点をふまえた教材の開発をめざしました。

### ② 教師の専門性発達理論にもとづく構成

実習は、単に学んだ教授法を試してみるだけの場ではありません。実習生は、それぞれの現場や学習者を理解し、その状況に応じた教え方を考えて実践します。そして、うまくいったこと・うまくいかなかったことを振り返りながら省察を重ねることで、自分なりに現場に根ざした理論（＝「実践知」）を立ち上げていく——このような「経験をとおした学び」を体得する機会もあります。こうした学びの習慣は、教師として働きはじめたあとも、日々の実践をとおして成長しつづけるために欠かせません。教師教育の分野では、このような専門性の発達を「実践と理論の往還による学び」と呼びます。本書はこの理論に基づき、実習生が主体的かつ自律的に学べるよう構成されています（第2章参照）。主な特徴として以下2点があります。

### ワークブック形式

本書は、知識を提示するだけの専門書ではなく、実習生が自分自身に引きつけて考えられるような活動を盛り込んだ「ワークブック」として構成されています。発展編として、実習生が実際に遭遇しそうな場面や状況をもとに考えるための6つの「ケース」も用意しており、実践知の学びに活用できます。受け身ではなく、自ら考え、ことばにし、実習仲間と話し合うといった活動をとおして得られる気づきは、専門書を読むだけでは得がたい貴重な学びとなります。また、活動用のワークシートはオンラインでダウンロードが可能で、記入後は電子ポートフォリオとして蓄積することで、形成的評価の資料として、自律的な学びの管理にも役立ちます。

## ループリック

巻末には、実習をとおした学びについて考えるヒントとして、ループリックを掲載しています。実習に入る前にループリックに目を通すことで、「何を学ぶのか」「どのような点を意識して臨むべきか」を整理できます。さらに、実習中や実習後にも折に触れて見返すことで、自身の学びを可視化し、振り返りに活用することができます。

### ③ 登録日本語教員の登録要件を満たす実践研修の内容

本書は、登録日本語教員の要件を満たす実践研修で使用できる教材として、2024年に文部科学省が公開した「登録日本語教員 実践研修・養成課程コアカリキュラム」\*で示されている「6つの学習項目と到達目標」「日本語教師【養成】に求められる資質・能力」「日本語教育の参照枠」等をふまえた教材となっています。

## 2. 対象とする読者

本書は、日本語教育の実践研修を受講する実習生はもちろん、実習の受け入れや送り出しを担当されている教師の方々にもご活用いただける内容となっています。また、日本語教師教育に関心のある方々にも、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。

## 3. 本書の構成と使い方

本書は、第1章から順に使うこともできますが、実習の授業や現場に合わせて、適宜、モジュール形式で使っていただくことも可能です。特に、「ケース学習」や「ループリック」を使用する時期や方法は、各実習の目標や状況に合った形でご使用ください。

### ① 実践研修のコアカリキュラムに沿った構成

実践研修のコアカリキュラムで提示されている「6つの学習項目と到達目標」「日本語教師【養成】に求められる資質・能力」「日本語教育の参照枠」（第1章参照）を反映した構成となっています。以下にこれらの項目と本書の章との関係について表に示します。

6つの学習項目	各項目の到達目標 「日本語教師【養成】に求められる資質・能力」の技能・態度	章	章のタイトル
オリエンテーション	<p>実践研修全体の目的・目標を理解し、日本語教師として求められる資質・能力と実践研修がどのようにかかわるか理解している。</p> <p><b>1～3章：「言語教育者としての態度」</b> <b>4章：「教育実践のための技能」</b></p>	1	実習って何だろう？
		2	実習でどんなことを学ぶ？
		3	実習先でのマナー、どうしたら良い？
		4	実習先のオリエンテーションでは、どんなことをするの？
授業見学	<p>授業の流れ及び学習者や教師の様子を観察し、授業を分析することができる。</p> <p><b>5章：「教育実践のための技能」</b> <b>6章：「言語教育者としての態度」「学習者に対する態度」「文化的多様性・社会性に対する態度」</b></p>	5	授業見学のポイントは？
		6	学習者に、どう接したら良い？
授業準備	<p>教壇実習の場となるプログラムやコースのカリキュラムを踏まえて、授業で扱う内容を理解し、学習者の学びを計画するとともに、その実施のために必要な教材・教具等を準備することができる。</p> <p><b>7章・9章：「教育実践のための技能」「学習者の学ぶ力を促進する技能」「社会とつながる力を育てる技能」</b> <b>8章：「教育実践のための技能」「学習者の学ぶ力を促進する技能」</b></p>	7	授業の準備をするときに、教え方はどう決めたら良い？
		8	教科書分析、授業案作成のポイントは？
		9	教材作成・使用のポイントは？
模擬授業・教壇実習	<p>授業計画や教材・指導方法などの妥当性を検討するため、模擬授業を実施し、振り返りや改善を行なうことができる。</p> <p><b>10章：「教育実践のための技能」「学習者の学ぶ力を促進する技能」</b> <b>11章：「教育実践のための技能」「学習者に対する態度」</b></p>	10	模擬授業で押さえておくべきポイントは？
		11	教壇実習でのアイコンタクト・指名・指示・問い合わせ・応答のポイントは？
実践研修全体総括（振り返り）	日本語教師として自律的に成長していくために、実践研修全体を振り返り、内省することができる。 <b>12章：「教育実践のための技能」「言語教育者としての態度」「学習者に対する態度」「文化的多様性・社会性に対する態度」</b>	12	実習を振り返る

本書は、「日本語教育の参照枠」の内容をふまえた構成となっています。「日本語教育の参照枠」に関連する主なキーワードは、以下の通りです（五十音順）。

学習者同士の「やり取り」(第5章)、学習者の複言語・複文化性(第6章)、学習到達目標(第5章)、Can do (第5章、第8章、第10章)、言語活動 (第5章、第7章)、言語教育観の柱 (第2章、第7章)、行動中心アプローチ (第5章、第7章)、行動目標 (第8章、第10章)、社会的存在 (第2章)、熟達度レベル (第5章、第7章) 自律的学習 (第2章、第12章)、多様な日本語使用 (第2章)、登録日本語教員 (第1章)、認定日本語教育機関 (第1章)

## ② 各章内の構成

### (ア) マンガとウォームアップ

導入として、各章が実習の「どのような局面に焦点を当てているのか」、「その局面でどのようなことを学ぶ必要があるのか」についてマンガ仕立てで文脈・状況が示されています。マンガの下に書かれているウォームアップも参考にし、各章で学ぶ内容を想像し、スキマを活性化しましょう。

### (イ) ポイントの提示

導入部で示されたマンガとウォームアップの答えを考えるためのポイントが簡潔に示されています。

### (ウ) ポイントの説明と活動

各ポイントについて考えるためのヒント、留意点、例が書かれています。説明を読んだ上で、活動を実際にやってみて実習仲間と話し合う中での気づきを大事にしましょう。

### (エ) 「こんなとき、どうする？」

発展として考える課題として実習生が遭遇しそうな場面・状況が各章の最後に示されています。正解は一つではなく、実習生としてだけではなく、日本語学習者や実習先の教員など、多様な角度から実習について考えるきっかけとなります。まずは自身で考えた上で「考えるヒント」の解説も参考にし、さらに考えを深めましょう。

### (オ) 章のまとめ

各章の目的と大事なポイントが最後に示されています。

## ③ ワークシート（オンライン）

各章内および「ケース学習」内の活動に関しては、本書ご購入者用にてワークシートをダウンロードすることができるようになっています。ワークシートに記入し、電子ポートフォリオとし

て管理し、オリエンテーション、授業見学などの局面ごと、または最後の振り返りで活動の記録を見直してみましょう。授業で本書を使用される場合は、ワークシートを実習指導教員への提出用に活用することもできます。ポートフォリオの管理については第2章をご参照ください。

#### ④ コラム

各章の終わりにコラムが入っています。実習生に向けて、実習に携わったことのある人々のリアルな実体験の声が多彩に描かれています。日本語学校で実習受け入れを担当している教師、先輩の実習経験談、先輩日本語教師からのメッセージ、日本語教員の資格試験準備など、実習生にとって有益な情報が盛りだくさんです。

#### ⑤ ケース学習

本書は、理論と実践を往還しながら学ぶことを目的として設計されています。発展編として掲載しているケース（事例）は、実際に実習を経験した人たちの話から再構成した状況をもとに作成されたものです。実習生のみなさんには、「自分ならどう対応するか」を事前に考えることで、現場での判断力や対応力を養っていただきたいと考えています。取り組むタイミングは自由ですが、現場での学びをより豊かにするために、教壇実習までに一度考えてみることを勧めます。これらのケースには唯一の正解はありませんが、「ケースを考えるヒント」をオンラインで公開していますので、さまざまな立場からの視点を参考してください。

#### ⑥ 日本語教育に関する用語リスト（巻末）

各章内で使われている用語の中で、特に日本語教育に関する重要語となっている用語に関しては、巻末にまとめて用語説明が入っています。用語リストに入っている用語については本文中では太字で示されているので、用語の意味を確認する際に活用してください。日本語教員養成課程で学んだ用語や概念が、実習や教育現場にどのように関連しているのかを確認ていきましょう。

#### ⑦ ループリック（巻末）

本書の巻末に実習をとおした学びについてのループリックを掲載しています。ループリックの目的や用途に関する詳細は巻末のループリックの使い方（pp. 170-171）をご参照ください。

#### 4. 本書全体を通して用いる用語

本書で用いる用語の意味は以下の表のとおりです。

実習	登録日本語教員のための実践研修（日本語教育実習）
実習生	登録日本語教員の資格を取得することを予定して実習を受講している方
実習先	教壇実習を行う日本語教育機関
教師	日本語教師一般をさす。ただし、制度に関する用語（例：登録日本語教員）には「教員」を用いる
実習先の担当教師	教壇実習を行う日本語教育機関において、受け入れ全体を担当する教師
教壇実習の担当教師	教壇実習を行うクラスの担当教師、上記の「実習先の担当教師」と重なることもある
大学等の指導教員	実習生を送り出す側の大学や専門学校等の養成課程（講座）の教員のこと

#### 5. オンライン資料へのアクセスとパスワード

各章の活動用のワークシート、および、「ケース学習」の「ケースを考えるヒント」は、本書購入者用のオンラインサイトからダウンロードしてください。

『日本語教育実習ワークブック』サポートページ  
[https://www.bonjinsha.com/wp/jisshu\\_workbook/](https://www.bonjinsha.com/wp/jisshu_workbook/)



編者一同

\*文部科学省「登録日本語教員 実践研修・養成課程コアカリキュラム」(2025年10月14日)[https://www.mext.go.jp/content/20240321-ope\\_dev02-000034812\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240321-ope_dev02-000034812_4.pdf)

# 目次

<b>第1章 実習って何だろう？ .....</b>	<b>1</b>
point 1 実習の目的や流れを考えよう .....	2
point 2 シラバスを確認しよう .....	4
point 3 どのような資質・能力を身につける必要があるのか考えよう .....	7
column 日本語教員試験の準備 .....	13
<b>第2章 実習でどんなことを学ぶ？ .....</b>	<b>15</b>
point 1 実習には、目的意識と目標を持って臨もう .....	16
point 2 自身のビリーフについて知っておこう .....	20
point 3 自分の学びは自分で管理しよう .....	25
column 海外での日本語教育実習 .....	31
column 日記でたどる実習で得た学びと今 .....	33
<b>第3章 実習先でのマナー、どうしたら良い？ .....</b>	<b>35</b>
point 1 社会人としてのマナーと準備のポイントを確認しよう .....	36
point 2 気持ちの良いコミュニケーションを心がけよう .....	40
point 3 実習をとおして社会人基礎力を身につけよう .....	42
<b>第4章 実習先のオリエンテーションでは、どんなことをするの？ .....</b>	<b>47</b>
point 1 実習先に自身のことを伝えよう .....	48
point 2 実習先について知ろう .....	49
point 3 実習の流れと内容を確認しよう .....	51
column 授業以外の日本語教師の仕事 .....	57

<b>第5章 授業見学のポイントは？</b>	<b>59</b>
point 1 見学する授業の教師に注目しよう	60
point 2 見学する授業の学習者の様子に注目しよう	63
point 3 見学する教室を観察しよう	65
<b>第6章 学習者に、どう接したら良い？</b>	<b>73</b>
point 1 授業担当教師と学習者とのインタラクションに注目しよう	74
point 2 授業外でも学習者と積極的にコミュニケーションをとろう	75
point 3 個々の学習者の個性や特性に関心を持ち、それらに配慮した接し方を考えよう	77
column 実習受け入れ担当教師の思い	85
<b>第7章 授業の準備をするときに、教え方はどう決めたら良い？</b>	<b>87</b>
point 1 さまざまな教え方を整理しよう	88
point 2 教え方にに関して、実習先の教育方針を確認しよう	91
point 3 自分はどのような授業をデザインしたいかを考えよう	93
<b>第8章 教科書分析、授業案作成のポイントは？</b>	<b>97</b>
point 1 教科書分析をしっかりと行おう	98
point 2 チェックポイントを参考にしながら、授業案を書こう	100
point 3 授業案作成後の見直しをしよう	104
<b>第9章 教材作成・使用のポイントは？</b>	<b>111</b>
point 1 著作権に配慮して教材を準備しよう	112
point 2 全体の見やすさを考えてスライド等を作成しよう	114
point 3 準備したスライドやオンライン環境を活用して日本語学習者の理解を促そう	115
column 協働からの学びの大切さ	121

## **第 10 章 模擬授業で押さえておくべきポイントは？ .....123**

point 1 模擬授業のためにしっかり準備しよう.....	124
point 2 模擬授業で授業中に意識することを確認しよう.....	126
point 3 模擬授業を振り返り、授業案を修正しよう.....	128

## **第 11 章 教壇実習でのアイコンタクト・**

### **指名・指示・問い合わせ・応答のポイントは？ .....133**

point 1 アイコンタクトをしっかりとろう.....	134
point 2 学習者を指名するときには、たくさんのこと気に配慮しよう.....	135
point 3 伝わるように指示を出そう.....	137
point 4 学習者への「問い合わせ」を工夫しよう.....	138
point 5 学習者の回答には、適切に応答しよう.....	139

## **第 12 章 実習を振り返る .....145**

point 1 教壇実習を振り返ってみよう.....	146
point 2 実習全体を振り返ってみよう.....	149
point 3 今後に向けて一学び、成長し続ける教師をめざそう .....	152

column 地域日本語教育に携わる・日本語を教える .....	156
column 実習経験と日本語教師としての今 .....	158

## **発展編**

### **ケース学習：実習先でこんなケースに遭遇したとき、どうしたら良い？ .....160**

ケース 1：学習者の発音が聞きとれない！ .....	161
ケース 2：指示が伝わらない… .....	162
ケース 3：学習者への対応って、難しい！ .....	162
ケース 4：先生方が忙しそうで… .....	163
ケース 5：実習先の先生からのフィードバックにモヤモヤが… .....	163
ケース 6：先生たちの普段の仕事も見られず、学習者とも仲良くなれず… .....	164
ケース学習のまとめ .....	164

用語説明 .....	165
------------	-----

参考文献リスト .....	168
---------------	-----

ループリック .....	170
--------------	-----